＜特集　研究資料＞

学校園教員の成長指標調査報告

—成長指標尺度の因子分析結果—

石本雄真・大谷直史・柿内真紀

A Survey Report on Indicators for Teacher Education: Through the Factor Analysis of Teacher Education Indicator Scale

ISHIMOTO Yuma, OOTANI Tadasi, KAKIUCHI Maki

キーワード：学校教員，教員育成指標
Key Words: School Teacher，Indicators for Teacher Education

Ⅰ．問題・目的

2016 年の教育公務員特例法の改正によって，教育委員会等に校長及び教員としての資質に関する指標（以下，教員育成指標）を定めることが義務付けられた。このことから，各都道府県等では，幼稚園，小学校，中学校，高等学校，特別支援学校の教員（以下，学校園教員）についての育成指標が定められた。しかしながらこの指標は，多くの場合一律に経験年数によって獲得すべき技能を定めているものであり，教員が最低限持つべき最大公約数的な能力が羅列されているのみである。また，チームとしての学校（チーム学校）が強調される中，本来であれば 1 人の教員がすべての能力を持たなくとも，学校園としてさまざまな能力をもつ教職員がそれぞれの能力を活かしあうことで学校園全体としての能力を発揮する方向に向かうべきであると考えられる。このため，一律に同じ能力を同じ程度に持つ教員を育成することは，チーム学校の流れとも相容れない。加えて，幼児児童生徒の多様性が増す中，教員も多様に能力を身につけていくことが望ましいと考えられる。

これらのことから本調査では，すべての教員が一律に身につけるべき能力を定めるのではなく，さまざまなタイプの教員がそれぞれの特性に応じて成長するための指標を作成することを目的とした。具体的には，優れた能力をもつ教員の特徴から項目を作成し，それらの項目に対して因子分析を行うことで教員の成長指標尺度を作成することを目指した。教員自身が認識する優れた教員の記述から項目を作成することで，実態に即した項目の作成を行った。なお，統計分析には HAD16.051（清水, 2016）を用いた。

Ⅱ．予備調査—方法

1．調査対象者・調査時期

鳥取大学が 2017 年に開催した教員免許状更新講習必修講習（全 4 回）の各回に参加した教員 545 名。そのうち調査回答者は 448 名（回収率 82.2%）。

２．調査方法

講習前にアンケートを配布し，講習後に回収箱に提出を求めた。なお，アンケートの回答は任意であること，アンケートの回答内容，回答の有無は更新講習の成績とは一切関連しないこと，回答内容は個人が特定される形では用いないことをアンケート用紙に明記し，回答をもって調査協力への承諾とした。

３．調査内容

（１）優れた教員の思考または行動の特徴

回答者の周囲にいる高い能力をもつ教員について，1. 教科教育，2. 生徒指導・教育相談，3. 特別支援，4. 特別活動，5. 集団作り，6. 子どもとの関係作り，7. 保護者対応，8. 教職員間連携，9. 学校外連携，10. 事務的作業，11. 後進の育成，12. その他の 12 分野のうちから 1 つの優れた分野の選択を求め，選択した分野に関連する当該教員の行動または思考の特徴について記述を求めた。2 名分の回答を求めた。

４．回答の分類と項目の作成

得られた記述を 3 名の大学教員で分類し，大カテゴリー12，小カテゴリー25 に分類した。大カテゴリーごとに 2～12 項目を作成し，計 64 項目を作成した。

Ⅲ．本調査―方法

１．調査対象者・調査時期

鳥取大学が 2018 年に開催した教員免許状更新講習必修講習（全 6 回）の各回に参加した教員 841 名。そのうち調査回答者は 814 名（回収率 96.8%）。

２．調査方法

講習前にアンケートを配布し，講習後に回収箱に提出を求めた。なお，アンケートの回答は任意であること，アンケートの回答内容，回答の有無は更新講習の成績とは一切関連しないこと，回答内容は個人が特定される形では用いないことをアンケート用紙に明記し，回答をもって調査協力への承諾とした。

３．調査内容

（１）教員の成長指標項目

予備調査で作成した 64 項目に対して，自分自身にどの程度あてはまるのかについて，「1 あてはまらない」から「5 あてはまる」までの 5 件法で回答を求めた。

（２）回答者のプロフィール

性別，年齢，勤務年数について，記述で回答を求めた。勤務地域について，鳥取県東部，鳥取県中部，鳥取県西部，鳥取県外から選択で回答を求めた。勤務先について，幼稚園，認定こども園，小学校，中学校，義務教育学校，高等学校，特別支援学校，その他から選択で回答を求めた。学級担任の有無について，現在学級担任をしている，していないから選択で回答を求めた上で，している場合には，その学年について記述で回答を求めた。

Ⅳ．結果

１．分析対象者

勤務先について，その他を選択した者および未記入であった者を以降の分析から除外した。

２．項目分析

全 64 項目間の相関，全体の α 係数および各項目削除後の α 係数を算出し，他の項目との相関が極めて低く，削除することで全体の α 係数が上昇することが示された 3 項目を以降の分析から除外した。3 項目削除後の α 係数は.952 であった。

３．因子分析

因子数の決定のため，各因子数における Minimum Average Partial（MAP）を確認したところ，MAP が最小になるのは因子数 6 であった。このため，6 因子を最小の因子数として各因子数で最尤法，Harris-Kaiser の独立クラスター回転を用いた因子分析を行い，それぞれの適合度を算出したところ，因子数 6 から因子数が増加するごとに CFI が増加し，9 因子において.9 を超える値となった（.907）。適合度および解釈可能性を鑑み，因子数は 9 とした。9 因子とした際の適合度は，CFI=.907，RMSEA=.044，AIC=3818.175，BIC=6062.007 であった。

9 因子での因子分析の結果を用いて，9 つの下位尺度を作成した。下位尺度作成の際は，いずれの因子にも.3 以下の負荷を示す項目を除いた上で，各因子に最も大きい負荷を示す項目のうち，他の因子に.3 以上の負荷を示さない項目を用いて構成した（Table1, 2）。

Table1 因子分析結果

項目No	項目内容	因子名	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	共通性
13	１人１人に特性や状況に合わせて子どもと接している	子ども理解	.838	-.096	-.096	.061	-.172	.111	.010	.012	.097	.587
8	どの子どもに対しても、その子の好きな部分を挙げることができる		.663	.007	-.104	.040	-.039	-.033	.179	.017	-.112	.470
10	子どもの気持ちに寄り添うことができる		.650	.199	.035	-.070	.003	-.215	.126	-.098	-.034	.522
28	子どもの特性に応じた対応をしている		.600	-.147	-.008	.193	-.134	.006	.146	.119	.105	.594
54	それぞれの子どもの家庭背景やきょうだい構成を把握している		.477	-.021	.029	-.166	.202	.151	-.085	.004	.038	.353
48	子どもから尊敬されている	動機づけ	.046	.781	-.012	-.109	.054	-.168	.000	.008	.003	.457
52	教材教具のアイデアが豊富である		-.126	.591	.057	-.101	-.007	.271	-.063	.078	-.065	.436
4	子どもに興味を持たせる授業や活動ができる		.068	.568	-.140	.195	-.074	.017	.029	-.051	-.003	.422
64	子どものやる気を引き出すことができる		-.035	.529	.008	.123	.048	.026	.180	-.023	.027	.577
7	教科に関する知識を豊富に持っている		-.144	.483	-.106	.253	-.054	.230	-.175	-.033	.008	.414
59	保護者の立場に立って保護者と接している	共感	-.041	-.150	.913	-.079	-.047	.080	.025	-.032	.040	.620
62	保護者の思いを受け止めることができる		-.134	-.065	.913	.130	.033	-.082	.014	-.036	-.126	.643
60	子どもの立場に立って物事を考えることができる		.052	.112	.521	-.088	-.126	.114	.241	-.055	.105	.586
61	困ったときに助けを求めることができる		-.203	-.275	.448	.134	.288	-.105	.148	.014	-.008	.252
26	常に一貫したルールをもとに指導を行っている	規律と効果的な学習指導	.080	-.136	.074	.600	.046	-.088	-.008	-.058	.152	.407
30	必要なときには厳しく指導ができる		-.095	-.020	.027	.566	.072	-.110	.092	-.112	.199	.386
20	理解の早い子どもに対して適切な課題を用意している		-.110	.115	.002	.550	.040	.003	.036	-.018	-.061	.336
9	子どもが説明や学習内容を理解できなかったときには、別の説明や例を示すことができる		.236	.057	.070	.546	-.152	-.033	-.078	-.038	-.022	.414
57	子どもの学習達成度を適切に評価することができる		.009	.200	.039	.386	-.079	.190	-.102	.034	.065	.469
6	子どもの学習達成度を多様な形で評価するようにしている		.208	-.012	-.182	.344	.122	.185	.128	-.095	-.149	.316
47	１人１人の適性や能力に応じた学習指導を行っている		.113	.150	.088	.338	-.125	.099	.036	.154	-.055	.471
27	地域の人との連携を行っている	連携	-.167	-.178	.009	.042	.772	.042	.102	.054	.037	.495
15	学校園のある地域と積極的に関わろうとしている		-.030	-.096	-.070	-.141	.693	.064	.123	.057	.069	.427
44	後輩を育てていこうと意識して行動している		-.137	.237	.079	-.029	.637	-.066	-.100	-.049	.045	.467
3	必要なときに後輩のサポートを行っている		.075	.049	-.086	.290	.557	-.123	-.234	-.045	-.033	.372
42	異年齢のつながりを目指す活動を頻繁に行っている		.065	.003	-.070	-.247	.554	.091	.242	.013	-.020	.382
53	学校園内で他職種との連携を積極的に行っている		.029	.014	-.033	-.062	.507	.196	-.064	.033	-.051	.352
33	同僚の悩みや相談をよく聞く		.188	.023	.127	-.025	.477	-.160	-.002	-.049	.017	.372
35	学習に関する効果的な指導方法を他の教員と共有しようとしている		-.152	-.111	-.002	.276	.447	.040	.234	-.015	-.082	.317
56	常に生徒指導や子どもへの支援に関する新しい情報を手に入れようとしている	新規性追求	.130	-.154	-.026	.090	.088	.736	.000	-.130	-.009	.554
5	常に学習指導に関する新しい情報を手に入れようとしている		-.009	.007	-.210	.250	.103	.550	.095	-.154	-.086	.408
40	自分の校種に限らず、教育全体について考えることが多い		-.257	.225	.071	-.156	.047	.507	.135	.011	.019	.322

Table2 因子分析結果続き

41 愛情を持って子どもと関わっている	受容	.128	-.041	.136	.050	.048	-.050	.535	-.046	-.056	.497
43 子ども自身が選択したり答えを出したりするのを待つようにしている		-.204	-.113	.284	.028	-.093	.203	.474	.096	.085	.364
34 できるだけ子どもと時間を過ごそうとしている		.183	.107	-.085	-.096	.231	.001	.465	-.054	-.020	.442
1 子どものことをよくほめる		.239	.078	.002	-.082	-.080	.102	.390	-.013	-.009	.338
17 特別支援教育に必要な知識を持っている	特別支援教育	-.061	-.036	.004	.021	-.024	-.047	.035	.992	-.011	.864
21 特別支援教育に必要な技術を持っている		.018	.061	-.034	-.021	-.003	-.039	.015	.888	-.013	.775
16 特別支援教育に関して他の教員にアドバイスを行うことができる		.044	-.018	.010	-.047	.131	.016	-.084	.795	.035	.741
32 効率よく事務的作業をこなす	効率	-.109	.091	-.016	-.072	.075	.016	-.056	.083	.639	.425
14 必要な仕事と不要な仕事を見分けることができる		.202	-.097	.101	.012	-.097	.151	-.198	-.099	.635	.463
31 メリハリをもって仕事に取り組んでいる		-.036	.009	-.184	.206	.136	-.148	.193	.004	.634	.554
残余項目											
11 苦手な同僚や上司ともうまく接することができる		.393	.058	.085	.185	.271	-.373	-.106	-.114	-.124	.287
12 外部専門機関とよく連絡を取っている		.375	-.203	.038	-.076	.362	.289	-.305	.057	-.038	.418
18 子どものさまざまな多様性を考慮して学習や活動を行っている		.360	-.083	-.098	.436	-.150	.012	.083	.299	-.003	.564
19 子ども同士の連帯感を育むことができる		-.051	.397	-.054	.320	.197	-.168	.186	.109	-.134	.523
22 情熱をもって教育に取り組んでいる		-.255	.042	-.009	.327	.171	-.073	.485	.090	.022	.399
24 子どもを適切に甘えさせることができる		.314	.201	.197	-.418	.032	-.060	.284	-.036	.144	.457
25 保護者と信頼関係をもつことができる		.440	.121	.435	.023	.036	-.227	-.164	.012	-.008	.549
36 災害後の子どもへの適切な対応について理解している		.210	.047	-.083	-.008	.274	.133	-.004	.039	.038	.285
37 保護者とこまめに連絡を取っている		.444	-.116	.083	.164	.318	.036	-.159	-.023	-.089	.455
39 子どもが問題行動を起こしたとき、その理由について複数推測することができる		.004	.049	.280	.195	-.113	.150	-.002	.120	-.045	.300
45 外部専門機関としてどのような機関があるのかを挙げることができる		.175	-.079	.225	-.067	.186	.346	-.298	.197	-.037	.474
46 保護者の批判をうまくおさめることができる		.101	.270	.412	.071	.173	-.070	-.368	-.031	.033	.457
49 教員集団をまとめたり引っ張ったりする		-.118	.461	.023	-.002	.481	-.046	-.254	-.011	.047	.493
50 叱る前にまず子どもの話を聞くようにしている		.110	.099	.172	-.017	-.074	.207	.211	.011	-.051	.316
51 子どもの特性を多面的に把握することができる		.288	.286	.168	-.047	-.215	.275	-.015	.055	.011	.497
55 子どもの心をつかむのが得意である		.245	.764	-.003	-.437	.041	-.081	.167	-.010	.041	.584
58 わかりやすい授業や活動を用意することができる		-.229	.575	.187	.329	-.206	.115	-.124	.038	.017	.609
63 子どもの昨年の様子を説明することができる		.069	.028	.064	.012	.135	.192	.010	.027	.106	.233

項目分析の段階で削除した項目

2 前例踏襲で仕事をすることが多い
23 他校種のことにはあまり興味がない
29 常に批判的に物事を捉えようとしている
38 反抗的な子どもへの対応は苦手だ

石本雄真（鳥取大学教員養成センター）
大谷直史（鳥取大学教員養成センター）
柿内真紀（鳥取大学教員養成センター）

引用文献

清水裕士（2016）. フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案 メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 59-73.